

# 福島潟の思い出と願い

渡辺知徳

「昭和の御代」の最後の元旦あるこう会は、いつものように福島潟で初日の出を拝もうという趣向の4キロあまりのコースである。

新井郷川の潟口橋を渡りながら、ここで子供の頃「あれが浮島だ。ヨシヤマコモでできている島で風が吹くと潟の中を動き、季節風が吹くと岸に近いところに寄せられるんだ」と教えられたことなどを思い浮べた。昭和20年代まではこの浮島は確実にあったと思う。

いささか懐古趣味だと笑われるかも知れないが、満満と水をたたえた広大な福島潟の頃のことなどの断片を思い出してみたい。

8月も末ころになると嘉山小黒酒造の脇から舟を仕立てて、潟遊山に行く。潟での舟遊びのことを「潟遊山」と呼んだ。2キロばかりハンノ木の稲架木が両岸に並ぶ銅屋川を通り「おたえ橋」をくぐり抜ける。「おたえ」という娘が、たもとに石を詰めて飛び込んで自殺したところという。きっときれいな娘だったにちがいない。悲しい恋物語を空想しながら、それでもおっかなびっくり板を組み合わせただけの橋を過ぎると今は干拓で美田と化した「小潟」が開ける。戦中の頃のことだ。

小潟のヒシは早生だという。実も葉も普通のヒシに比べて小型で時期も10日間くらい早く熟したようだ。ヒシは鉄鍋で茹でないと黒くならない。そのころ配給になったアルマイトの鍋では色が白っぽく実も柔らかく大潟のもののようにポクポクした舌触りはなかったことを覚えている。葛塚市では大きな蓮の葉を敷いたところに山盛りにして5合ます、1升ますで売っていた。

小潟は水もきれいで、ドンバスはあまりなかったように思う。「ジュンサイもあるんだが」と大人たちは捜していた。大潟（現在の福島潟）へは水門でつながっていて「大潟は広くて危ない」と大人たちは連れて行かなかった。

コウホネのことをカワネといった。川にある根っこということだろう。戦中、学用品も乏しかったころ、誰かがこの根っこを採ってきて四角に切ると消しゴムそっくりだった。ゴム製品はシンガポール陥落のときだったか、日本が南洋のゴムの宝庫を手に入れたといっていて、わずかにゴムまりが配給されたくらいのもので、消しゴムは貴重品だった。乾燥して試してみたが、当時の粗悪な紙にこれまた粗悪な鉛筆で書いた字は、とても消せるものではなかった。

コウホネは潟まで行かずとも家に近い前川と呼んだ町浦川や、ちょっと町はずれの小川へ行けばどこにでもあって、長い花柄を採ってきて1寸ずつくらいに皮

を残して交互にとり黄色い花のついたのを首飾りにして遊んだりした。しかし、お盆のころの蓮の花柄は折ると糸が出てコウホネよりもうまく繋がった。そういえば潟のトバス（蓮の実）もお盆過ぎたころに4・5本ずつ束ねたものが市場で買えた。まだ熟さないものを実を取り出して歯で二つに割り、皮を残して食べる。胚芽の部分は少し苦味もあるが、わずかに甘みもあって子供のおやつだった。実を取り出した緑の皮は指の先にはめて「鬼の爪だぞ」などとこれも遊びの道具になった。

昭和30年代も前半のころ、毎年のように9月の末頃になると悪童連が連れだって潟へ乗り出すのを例とした。一升ビンと、そのころまだ大びらに獲れた雀の串焼きを持参して、どこを見ても人っ子一人見えない大潟の真中で酒盛りをし青春を謳歌した。

ドンバス、あるいはドンバと地元で呼ぶオニバスは、淀みのところであちこちに群生が見られたが年によってその群落の大きさにはかなりの差があった。ドンバス原（群生地）を舟は避けて通った。ここへ突っ込むと、あの鋭いトゲで葉が舟底にくっついて動かなくなり苦労するからだ。

潟端で川漁を業とする家に育った吉田徳雄さん（55才）が述懐していたことがある。「朝目覚めると、台所の流しで母親がお汁の菜をきざんでいる。今朝は何のおかずかなと覗くとドンバで、また今日もドンバかたがっかりしたもんだ。」と。

とげだらけの長い茎を竹竿の先に鎌をつけた道具で刈り取り葉を切り落して持ち帰る。葛塚市でもざっこ（雑魚）屋のしょう（衆）が鮒やなまずなどといっしょに並べ、わらで何本かを束ねて売っていた。

わが家では、とげのある皮をむき、三杯酢で食膳に並べたが子供達には不評だった。「味噌漬けもいもんです」とは佐藤正潟漁協組合長の話だが、これはまだ口にしたことがない。

ドンバスの花が咲いてまだ完熟しないうちに採取して、丁度銀杏の実を腐らすように軒下の雨おちのところにおいて丸い実だけを取り出す。種子を包むぬるぬるした表皮は、腐るとかなり強烈な臭いがある。大豆を炒るように焙烙で炒ったり、ゆでたりしておやつとしたこともある。近所に前原さん、藤原さんという家があって、いずれも潟端の新鼻に親戚があることから時節になるとそこの子供等が喰べているのが羨ましく、分けて貰ったりした。かなり固くて歯で割ると澱粉質の白い実で、特別に旨かった覚えはない。

昭和30年代後半には、潟の干陸化が拡がり、また水

質汚濁や水位の低下などの原因もあったと思うが、めっきり変容し、オニバスの姿は殆ど見えなくなった。

昭和41・42年の加治川の破堤による大水害で、福島潟は溢れ、阿賀野川拓り開き(享保15年)以前の状態もかくやと思われるほどに、葛塚郷一带は旬日に及んで泥沼と化した。この翌年の夏潟へ乗り出すと、ここ数年來姿を見せなかったオニバスが群生しているのを見つけ、そのたくましさを感じたのだった。素人の目には2年続いた大洪水で潟底の汚泥が洗われてこの植物が甦ったのだろうという想像であった。そして再びオニバスは福島潟から姿を消した。

福島潟・瓢湖自然環境保全調査(1975年3月)で、「オニバスは、昭和49年秋には絶滅したのではないかと思われる」と報告されていた。

昨年8月10日の昼過ぎ、潟の水質調査から帰庁した自然環境保全担当の高野義晴主事が「潟の正面堤に沿ったところでオニバスの群生が見つかった。約1反くらいの水面いっぱいには繁茂していたのを確認した」いささか興奮気味での報告であった。

『オニバス甦る』『まぼろし』の名までついて、このうわさは街中に広がった。承水路浚渫で吐き出された泥土の滞積場所の近くで測量のためにヨシ原に分け入った作業員が見つけて通報したのだという。何れともあれとかけつけて見ると、ヨシやマコモに囲まれた1.1アールあまりいっぱい水面も見えないほどの繁茂ぶりだった。数日後に測量してもらったら群生地のは水位は承水路の水位より1メートルも高くなっているとのことで不思議なこともあるもんだと首をかしげた。秋も終りの頃にはオニバスは影も形もなく消え去っていたが、水位だけは発見時よりも高くなっていて、明らかに溜り水の池であることがわかった。

「ドンバスは喰うとうんめいもんだ」「油いため、酢

のものなど、こてえらんねもんだ」とグルメのブームもあってか、もの珍しさからこんな噂が流れはじめた。

「折角再生したんだから、増殖して市の特産にしたら」「いや観光資源として広く宣伝して活用すべきだ」「加工して売り出したらどうか」等々、賑やかな話題であった。秋の頃には事実、刈り取られたと思われる幾株かが散見されたが、果たして味の方はいかがだったのだろうか。

潟周辺には「古罫」「新罫」「新々罫」などという耕地がある。手元にある昭和6年測量の2万5千分の地形図を広げて見入り、鱗状に沼地を開拓していった様子が歴然としていて、古人の福島潟干拓に寄せた執念のほどが偲ばれた。

昭和51年に福島潟国営干拓事業が終ったとき、阿賀野川の切り拓きから250年来の祖先の願望が達せられたこの事業は偉業だと、周辺の街や村は大変な喜びであった。

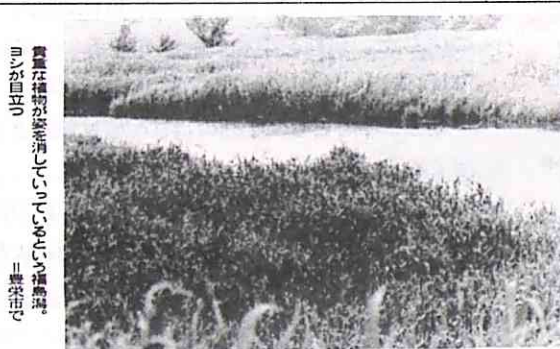
周辺の水路は三面コンクリートに、堤防はブロックでガードされ農道までが舗装されて、幼いころの、『おてつないで』の『野道』さえ姿を消した。

団地の空地に草が繁れば住環境が害されると除草剤が撒かれ、それでも人間が少し手を抜くと、固いアスファルト舗装を持ち上げて西洋タンポポやノゲシが花を咲かせる。そのたくましさを感じずると共に、人間の破壊に対する自然の抵抗であり、またその執拗ささえ覚えてほっとすることがある。

いまや世界的規模で自然破壊が急速に進行しているという。福島潟はほんの一握りの自然だといわれるかも知れないが、僅かに残されたこの沼地を、人の営みとの調和がはかられて、来世紀に伝えられる『自然』であることを願ってやまない。

(豊栄市保健環境課長)

享月 日 発行 1989年(平成元年)6月20日 火曜日



豊栄市で発見されたオニバスの群生。奥には阿賀野川が流れている。この群生は、昭和49年秋には絶滅したのではないかと報告されていた。

### 新大助教授ら調査

福島潟は、阿賀野川の右岸、船着いた園による干拓事業で、内最大約四百三十ヘクタールの地に、水位の大きな変動が起る。四十二年の干拓後、乾燥化の進行が著しく、植物の生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。

### 日本の自然百選

県内の代表的な自然百選の一つで、日本の自然百選にも選ばれている。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。

# 福島潟 自然破壊進む

## 植物200種消える

### 水域拡大 環境保全を提言へ

調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。

調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。

調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。

調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。調査の結果、オニバスの生育が著しく減少した。